



喜多埜

〜 古い御神札、御守について 〜

お正月に受けた御神札や御守は本来、一年経ったら新しいものに替えるとされています。これは御守の布地が一年も経つとやはり汚れますので、御守の中の神さまに申し訳ないで、新しいものに替えるという意味と、新しく替える事によって神さまの御力も若やぎ、力強くなるという意味があり、神道における常若(とこわか=常に若々しい)の御利益を授かる為だとされます。

しかし、子供の頃からずっと持つておられる御守や、大事な時に支えて下さった大切な御守であれば、今後もずっと大事になされるべきでしょう。しかしその取り扱いが新しい御守と同じではすぐに傷みますので、神棚横に小さな入れ物などを設けてそこにお納めするなど家宝同様に丁寧な取り扱いを心がければなりません。それが難しいようであれば、お返しされる事をお奨めいたします。

また一年の半分である六月を過ぎて御守を頂いたという方は、それからの半年間の間に悪い事があったのならば、災い除けの意味も込めてお正月に新たに受けし、良い事があつた場合はそのまま次の年のお正月までお待ち頂かれても結構です。

また、昨今は参拝者の方のご希望に添う形で色々な種類の御守がありますが、御守の本来の意味は、神社にお祀りされてる神さまにお近くについて頂きたいという事であり、まず、その神社にお祀りされている神さまを知らずして安易に受けるべきではないでしょう。

〜 初詣のご案内 〜

当神社では例年通り御本社、御旅社ともに一月一日は午前零時〜午後五時頃まで開門いたします。また、新年のお守り、御札などの授与も午前零時から開始致します。

今年一年間のご奉告と、来年一年間の無病息災を併せて初詣にどうぞお参り下さい。

〜 十二月の旬 〜

神事の際などに神さまにお供えする食べ物等の事を神饌(しんせん)といい、米・酒・塩・水などのお供え物が基本の神饌となります。

本来、順番や置き方など色々作法がありますが、古来より日々の感謝を込めて「旬のもの」をお供えする素直な心根こそが、神さまが一番お喜びになられるといわれています。

この十二月に旬を迎えるものとして、

【野菜】

水菜、甘藍、ネギ、白菜、菊菜、慈姑など。

【果物】

ゆず、ミカン、イチゴ、干し柿など。

【魚介類】

ふぐ、カキ、ブリ、クエ、スズキなど。

【その他】

路傍ではサザンカが咲き、いよいよ本格的な冬の到来となりました。冬は「増ゆ」が語源ともいわれ、その名の通り食べ物旨味も増える時期です。一年の感謝と新年の喜びを込めて正月の御節料理は特に頂きますと声をあげて家族皆で頂きたいものです。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

